

出演者プロフィール

舞踊



照屋 倫子 (てるやりんこ)

昭和39年 上間正光に入門。昭和44年より琉舞「寿乃会」大城政子に師事。昭和46年沖縄タイムス芸術選賞新人賞を受賞。昭和47年優秀賞。昭和49年最高賞。昭和50年教師免許。昭和60年グランプリ受賞。平成元年奨励賞。平成9年師範免許。平成11年ペルー日本人移民100周年式典ペルー公演。平成15年奄美群島日本復帰50周年記念に喜界島で公演。同年「紅倫の会」発足。平成20年古典舞踊部門大賞。平成21年第24回国民文化祭しずおか2010に「舞獅子」出演。平成22年台湾公演。平成23年東日本大震災被災地支援チャリティー公演「絆—今、私たちにできること」を6回計画し、実施中。

(ひが かなこ)
比嘉加奈子

昭和58年 照屋倫子に入門。平成9年沖縄タイムス芸術選賞新人賞を受賞。平成11年優秀賞。平成14年最高賞。平成18年教師免許を授与される。各地の公演に出演。

(たからりょうこ)
高良 涼子

平成12年照屋倫子に入門。平成14年沖縄タイムス芸術選賞新人賞を受賞。平成16年優秀賞。平成18年最高賞。平成20年教師免許を授与される。各地の公演に出演。

(ときもと ひとみ)
時本 ひとみ

平成14年照屋倫子に入門。平成16年沖縄タイムス芸術選賞新人賞を受賞。平成20年優秀賞。平成22年最高賞。各地の公演に出演。

(くにもとまよ)
國本 真代

平成15年照屋倫子に入門。平成17年沖縄タイムス芸術選賞新人賞を受賞。平成20年優秀賞。平成23年最高賞。各地の公演に出演。

(くにもとはるこ)
國本 晴子

平成18年照屋倫子に入門。平成20年沖縄タイムス芸術選賞新人賞を受賞。平成22年優秀賞を受賞。各地の公演に出演。

地謡(じうてー)

(かみや よしひろ)
歌・三味 神谷 好弘

昭和53年沖縄タイムス芸術選賞最高賞受賞。昭和55年野村流古典音楽保存会教師免許取得。昭和58年沖縄タイムス芸術選賞グランプリ受賞。平成2年師範免許取得。平成10年沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞。

(とうばる せいいち)
歌・三味 桃原 清一

平成3年沖縄タイムス芸術選賞新人賞を受賞。平成6年沖縄タイムス芸術選賞優秀賞を受賞。平成7年野村流古典音楽保存会教師免許取得。平成16年師範免許取得。

(やかび けんさく)
歌・三味 屋嘉比健作

昭和13年沖縄タイムス芸術選新人賞、平成15年優秀賞受賞。同年、野村流古典音楽保存会琉楽普及賞受賞。平成20年沖縄タイムス芸術選賞最高賞受賞平成23年沖縄タイムス芸術選賞グランプリ受賞。

(くによし ゆうこ)
箏 国吉 裕子

昭和60年沖縄タイムス芸術選新人賞、平成元年優秀賞、平成5年最高賞、平成20年グランプリ受賞。平成5年琉球箏曲教師免許、平成16年師範免許取得。

(ちねん ひさみつ)
笛 知念 久光

昭和48年琉球新報社主催の古典芸能コンクール(笛)新人賞受賞。昭和49年優秀賞。昭和52年最高賞。昭和58年野村流音楽協会笛教師免許取得。平成14年沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊」伝承者。平成20年国指定重要無形文化財組踊保持者。

(あめく かずこ)
太鼓 天久 和子

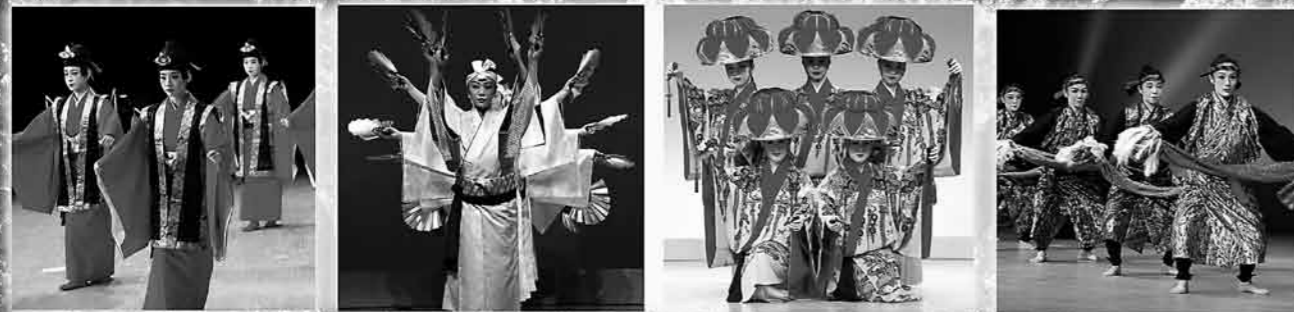
昭和57年乾流太鼓守根伸三郎研究所に入門。昭和58年第18回琉球新報社芸能コンクール(太鼓)新人賞を受賞。昭和61年優秀賞。平成元年最高賞受賞。平成6年乾流太鼓教師免許を授与される。平成16年乾流太鼓「和(なごみ)の会」発足。

賛助出演／沖縄歌謡

(のむら まこ)
野村 磨子

若くして上京し、作曲家上原げんと氏の内弟子となるが、縁あって平良リエ子沖縄舞踊研究所に入門。新宿の沖縄料亭「山原(やんばる)」の舞台上で歌ったり踊ったりしていたが、独立して店を構え、歌を聴かせる。その後那覇市に帰り、カラオケ教室の講師となる。

司会／宮崎 義敬 (みやざき よしのり)



鎮守の森コンサート2011



琉球舞踊への誘い

2011.10.19 水 19:00開演

会場 遠石会館

琉球舞踊への誘い

いぎな
プログラム

- 一 四ツ竹
- 二 瓦屋
- 三 若衆魔
- 四 花風
- 五 しゅんどう
- 六 創作舞踊 船出
- 七 休憩
- 八 創作舞踊 豊穰
- 九 高平良萬歳
- 十 谷茶前
- 十一 沖繩歌謡
- 十二 創作舞踊 舞獅子
- 十三 創作舞踊 島の若者

一 四ツ竹

比嘉加奈子、高良涼子、
時本ひとみ、國本真代、國本晴子

南国沖縄の美を象徴する花笠は、青い海に輝く波を銀色で表し、ハツとするような赤い花が表現されています。その花笠を被り、紅型(びんがた)衣装をまとい、手には四ツ竹を打ち鳴らしながら踊る祝儀舞踊の一つです。
動きの内面に美を求めることの多い「女踊り」の中で、喜びを大輪の花笠と響きも清らかな四ツ竹に込め、晴れやかに展開していきます。



二 瓦屋

照屋倫子

南国の月夜の美しさは格別です。特に中秋の名月の夜、そよ風もさわやかに吹き、身も心もとろけてしまいそうなほど、月の光は青白く降り注いできます。
一名「月見踊り」と呼ばれるように、この踊りはそんな風土を土壌にして誕生したものです。



三 若衆魔

高良涼子、時本ひとみ、
國本真代、國本晴子

魔(ぜい)とは、戦国時代の武将が指揮をとったり、合図を送るために使われた小道具ですが、琉球舞踊の世界では、五穀豊穣を祈り、太平の世をこほぐおめでたい道具として用いられます。

四 花風

比嘉加奈子

雑踊り(そうおどり)と呼ばれる踊りの傑作の一つで、那覇の港から船出する愛しい人を、三重城(みいぐすく)の丘から見送る遊女の別れの切なさを、しっかりと表現した演目で、深い悲しみの中でお、凛と咲くつよい意志をも感じられる内容となっています。

十一 創作舞踊 舞獅子

照屋倫子、比嘉加奈子、
高良涼子、時本ひとみ、國本真代

今日まで支えてくださった方々への感謝と、親が子を守るように弟子たちの成長と紅倫の会の発足を願う思いを込めて、創作したものです。



十二 創作舞踊 島の若者

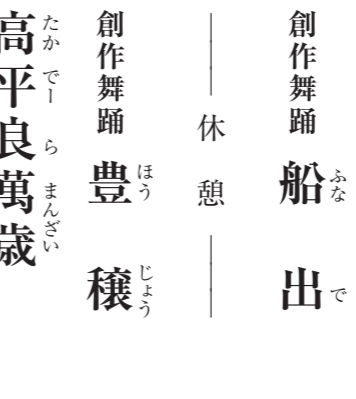
比嘉加奈子、高良涼子、
時本ひとみ、國本真代、國本晴子

生まれ島を離れ、久方ぶりに戻って見る故郷は、今も昔も変わらぬ緑鮮やかな自然と、人情溢れる人々の生活があります。仲間が集まればばいせんに歌や踊りが出てくる。そんなふるさと山原(やんばる)の風情を舞踊化したものです。

一 四ツ竹

比嘉加奈子、高良涼子、
時本ひとみ、國本真代、國本晴子

南国沖縄の美を象徴する花笠は、青い海に輝く波を銀色で表し、ハツとするような赤い花が表現されています。その花笠を被り、紅型(びんがた)衣装をまとい、手には四ツ竹を打ち鳴らしながら踊る祝儀舞踊の一つです。
動きの内面に美を求めることの多い「女踊り」の中で、喜びを大輪の花笠と響きも清らかな四ツ竹に込め、晴れやかに展開していきます。



二 瓦屋

照屋倫子

南国の月夜の美しさは格別です。特に中秋の名月の夜、そよ風もさわやかに吹き、身も心もとろけてしまいそうなほど、月の光は青白く降り注いできます。
一名「月見踊り」と呼ばれるように、この踊りはそんな風土を土壌にして誕生したものです。

七 創作舞踊 豊穰

比嘉加奈子、高良涼子、
時本ひとみ、國本真代、國本晴子

門下生二人一人が豊かな恵のもとで実り育ち、そしていつまでも清らかな心で、芸の精進を願ひ、この踊りを「豊穣」と名づけ、振付けした創作舞踊です。



八 高平良萬歳

照屋倫子

親の仇を討とうと萬歳姿に身をやつし、編笠を深くかぶり、敵を求めて旅に出て、遊芸人になりすまし、首尾よく討ち果たすという、古典舞踊には珍しいドラマ性を持った構成となっています。
四場面からなる踊りには、猫や鼠のまねをして空手風に踊ったりと、活発で目を引く場面が多く、特に左右の足を交互に上げる「二段がまく」の所作

五 しゅんどう

高良涼子、時本ひとみ、
國本真代、國本晴子

心の冷たい二人の美女と、明るく誠実な二人の醜女がおりなすユーモラスな物語を描いた古典舞踊唯一の打ち組み踊りで、中国からの冊封使(さつぽうし)をもてなす御冠船踊り(うかんしんおどり)では最後の演目として上演され、長い踊りを見終わった疲れを笑い納めて癒したと伝えられています。

六 創作舞踊 船出

照屋倫子、比嘉加奈子

平成十五年、紅倫の会発足の時に、空手や古武道を取り入れて創作されました。旅の先に待ち受けるかもしれない雨風、打ち寄せる大小の波も、共に力を合わせて漕ぎ渡り、乗り越えて行く。權(かゝい)を片手に明日を真っ直ぐに見据える姿には、その誓いと希望が満ち溢れています。



十 沖繩歌謡

野村磨子

沖縄には、すぐれた叙情歌が沢山あります。民謡とはちがう新しい歌ながら、沖縄の風土の中から生まれた独特のメロディが心地よく、農村の風景やくらしを想起させさせる懐かしい「ふるさとの雨」や「えんどうの花」、そして、よく知られた「芭蕉布」を歌います。

九 谷茶前

比嘉加奈子、時本ひとみ、
國本真代、國本晴子

漁村の生活を写実的な風俗舞踊にした雑(ぞう)踊りです。沖縄本島の丁度真ん中辺り、東シナ海に臨む谷茶の海岸に押し寄せた小魚の群れを捕った若者と、それを売りに行く娘らの生き生きとした生活ぶりが目に浮かぶように振付けされた踊りです。

